

災害への備え

自分の身は自分で守る



平成28年4月14日21時26分、熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード6.5の地震が発生し、最大震度7を観測しました。2日後の16日1時25分にも、最大震度7を観測する地震が発生し、これら2つの地震を含む一連の地震活動（「平成28年熊本地震」）により、多くの尊い命が失われました。

今までの地震で得た教訓から、私たち一人一人が行う備えや、災害時に気を付けるべきことなどを日頃から知っておくことが大切です。

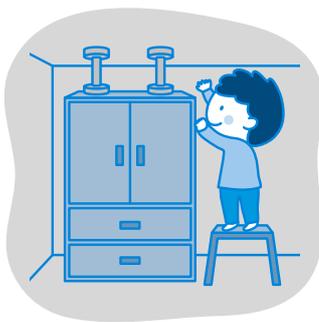


災害への準備はお済みですか？

平成7年の阪神・淡路大震災におけるけがの原因の約半数が、家具などの転倒や落下で、亡くなられた方の死因の8割以上が建物の倒壊による圧死や窒息死でした。また、熊本地震でも倒壊した家屋の下敷きになって、多くの方がけがをしたり、亡くなられたりしています。このことから、「地震で最初に人を襲うのは、家具や建物」といえます。

今できる備えとして、**食器棚や寝室にあるたんすなどの家具を固定**することが挙げられます。また、**自分が住む地域の危険度や家族との連絡方法、避難場所を確認**しておくことや、**水や食料などを備蓄**することも大切です。

地震はいつ襲ってくるか分かりません。そのとき、自分の身を守るため、今できる備えから始めましょう。



「いつ」というときに備え、訓練をしておきましょう

津波災害、火山噴火、土砂災害など、地域の特性に合わせた訓練を行い、避難経路や避難先、災害時の役割などを確認しましょう。市では、防災出前講座や訓練へのアドバイスを行っていますので、ぜひご利用ください。

災害図上訓練

避難所運営を模擬体験することができる図上訓練（HUG）。災害発生時の避難所で起こり得ることをカードゲームを通じて、簡単に学ぶことができます。



避難訓練

地域によって想定される災害危険予測（ハザード）は異なり、それに伴い避難の方法や避難先も変わってきます。地域の実情に沿った避難訓練を実施し、避難経路、避難先、危険箇所などを確認します。

